



つながるつたえる文化 収蔵美術展を開催

問い合わせは 文化国際課 ☎898-5825

本市所蔵の美術作品を一般公開する収蔵美術展を開催します。今回のテーマは「つながる、つたえる」。収蔵作家の中村節也さんや清水刀根さんの作品をはじめ、国内外で活躍する若手作家4人の作品などを、4会場で紹介します。また、前橋プラザ元気21別館では、午後10時までライトアップを実施。建物の外側から、照らし出される作品を鑑賞できます。

日時＝11月3日(休)～23日(水)、午前10時～午後5時（3日・23日は午後7時まで。臨江閣は午後4時まで）

会場＝前橋プラザ元気21別館、臨江閣、ミニギャラリー千代田（千代田町二丁目）、広瀬川美術館（千代田町三丁目）

■オープニングトーク

若手作家4人が作品について語ります。

日時＝11月3日(木)午後3時～4時

会場＝臨江閣

■学芸員による作品解説会

日時＝11月13日(日)午後2時、ミニギャラリー千代田集合

申し込み＝当日集合場所へ直接

■開局！街中ラジオハイスクール

出品作家の中島佑太さんを講師に、ラジオ番組の制作を通していろいろな表現方法を体験するワークショップを開催します。

日時＝11月23日(水)午後1時、ミニギャラリー千代田集合

対象＝市内在住・在学の高校生、先着15人

申し込み＝10月20日(木)から文化国際課へ。または、住所・氏名（ふりがな）・電話番号・年齢・学校名を記入し、Eメール（bunka@city.maebashi.gunma.jp）で



昨年度受賞者の朗読

■贈呈式・朗読会

入賞者の贈呈式と入賞作品の朗読会を実施します。

日時＝〈贈呈式〉11月19日（土）午後1時〈朗読会〉同午後1時40分

会場＝前橋テルサ

入選16人

■菊田守選考委員長の講評

家庭や学校、自然を取り上げた作品とともに、東日本大震災などをテーマにした作品が多く見受けられたことが、ことしの大きな特徴です。小学生からは感性の豊かさを、中学生・高校生からは自己を見つめ社会に対する偏見を正そうとする積極性を、多くの作品から感じました。また、今まで取り上げなかったようなテーマも見られ、これらの新しい詩の世界の広がりを予感させてくれました。

美棹賞

高校生の部

大城 太亮さん 沖縄県首里高1年

とある日常

怒りで頭の中が真っ白になっていたのだ
口からとび出す怒りの塊が
静かな部屋に染みこんでいく
母の顔がみるみるうちに強張るのがわかった

きっかけは何だっただろうか
母が僕の話に聞く耳を持たなかったからか
学校での出来事に嫌な言い方をしたからか
もう思い出せない程の些細なこと
なのにこの怒りはどうしたことだろう

いつかの僕
激昂に任せ 僕の手が
母の背にふり下ろされてしまった
今まで一度も親に暴力をふるったことなど無かったのに
心底驚いた
すぐにあやまったが
既に 母の頬には大粒の涙がつたっていた
とても居た堪れなかったのだった

くり返される日常
あの日の姿が目の中の母と重なりつつある
一瞬にして鋭くなった母の目には哀しさの色が強い
言葉には威勢はなく ただその場しのぎの言葉が紡がれていく
僕はすぐに部屋にこもり鍵をかけた
僕の怒りと母の鋭く哀しい目・・・
・・・僕は 逃げた

どのくらい時間が経っただろうか
気がつくと母が忙しく家事をこなす音が
部屋に伝わってくる

あやまるにはもう少し時間が要るようだ
ごめんよ 母さん

感性豊かな詩が集まる

若い芽のポエム入賞作品決定

応募作品2万1,299編の中から「第15回詩のまち前橋若い芽のポエム」の入賞作品が決まりました。ここでは、小学生・中学生・高校生の3部門で最優秀賞の美棹賞を受賞した作品と入賞者を紹介します。

問い合わせは 文化国際課 ☎898-5856

■全国・海外からも応募多数
本コンクールは、全国の小学生から高校生を対象にした詩のコンクール。本県を含めた18都道府県や海外のタイなどから昨年を上回る数の応募があり、全体的にレベルの高い作品が集まりました。

■入賞者は90人

各部門の入賞者は次のとおり。

— 敬称略 —

●小学生の部

美棹賞11 風間愛結乃（城東小1年）

銀賞11 前原茜（宮城小5年）

銅賞11 町田優里（下川淵小1年）

佳作11 12人

入選11 34人

●中学生の部

美棹賞11 角田匡希（芳賀中2年）

銀賞11 田中まなみ（三中3年）

銅賞11 岡部華菜（三中3年）

佳作11 7人

入選11 20人

●高校生の部

美棹賞11 大城太亮（沖縄県首里高1年）

銀賞11 平井拓哉（宮城県仙台向山高3年）

銅賞11 大島芽依（前女高2年）

佳作11 2人

美棹賞

中学生の部

角田 匡希さん 芳賀中2年

戦争帰りの父

「いってきました。」

と仕事から帰ってきた父

その姿は

「仕事」なんてものではなく

「戦争」帰りの姿だ

手には黒ずんだ赤色の絵具が何滴も

鎧には、黒光った戦場のような土が

ベッタリとついている

だがそんな姿になるまで

「仕事」という戦場で戦っていると思うと

僕は心の中で頭を下げる

深く深く頭を下げる

美棹賞

小学生の部

風間 愛結乃さん 城東小1年

ようせいのあしあと

わたしのみぎかたには
ちやいろのしみがあるの
おやゆびのつめぐらいの
ちいさいあしのあと

わたしがうまれたひ
おかあさんのゆめにようせいがでてきて
「こううんのしるしですよ。」
といったんだって
おとうさんも
おかあさんも
とっても とっても とってもうれしかったんだって
わたしもとってもうれしい

あしたもなにかいいことありそう